

主管課	資源循環推進課	一般会計					
		款		項		目	
		4	衛生費	2	環境費	2	環境対策費

事業の主な内容及び成果

【不法投棄対策事業】

○不法投棄パトロール及び監視事業

・不法投棄対策嘱託員(埼玉県警OB2人)により、パトロールを実施したほか、警察署との協力・連携により、投棄者が特定できた不法投棄事案については、被疑者の検挙につながった。

・過去に重大な不法投棄事案が発生した地区を中心に、移動式監視カメラを継続して3地点に、ダミーカメラを新たに3地点に設置した。また、不法投棄事案が頻発する地域や、人目の行き届かない市道や林道等を中心に、監視カメラ作動中看板(1枚)、監視重点地区看板(2枚)及び罰則を記した不法投棄禁止立て看板(42枚)を新たに設置した。

パトロール人員	パトロール日数	パトロール員による年間回収量
人 2	日 240	kg 12,900

○不法投棄未然防止事業

一般財団法人家電製品協会による不法投棄未然防止事業助成金を申請し覚書を締結、助成金の交付を受けた。全国では70の自治体が覚書を締結し、県内では飯能市、さいたま市、狭山市、草加市の4市が覚書を締結した。

<助成金の内容>

- ・防止事業:設備費(監視カメラのリース料、看板等の消耗品費)と労務費(監視パトロール員の報酬)が、原則として助成率50%。
- ・引渡事業:協会から指定された四半期(平成29年度は4月から6月)について、不法投棄により回収した特定家電製品を再商品化等実施事業者へ引き渡す手数料(リサイクル券)及び不法投棄物運搬委託料が、原則として助成率100%。

主管課	資源循環推進課	一般会計					
		款		項		目	
		4	衛生費	3	清掃費	1	清掃総務費

事業の主な内容及び成果

【ごみ減量・リサイクル推進事業】

○ 廃棄物減量等推進審議会

審議会の会議を2回開催し、廃棄物の収集・処理状況の報告等を行った。また、環境省が進めるマイバッグ・マイカゴキャンペーンをはんのう生活祭において実施した。

	開催期日	主な内容
第1回	平成29年6月1日(木)	・審議会長の互選、職務代理者の指名について ・平成28年度事業報告及び平成29年度事業計画について
第2回	平成30年3月13日(火)	・平成29年度事業報告及びごみ処理状況について ・平成30年度事業計画について ・施設見学について
—	平成29年11月12日(日)	・マイバッグ・マイカゴキャンペーン実施 ・生ごみ処理器はんのうキエーロの普及啓発

○ 廃棄物減量等推進員

各自治会長からごみ減量や分別を推進するため「廃棄物減量等推進員」として推薦をいただき、計1,980名を委嘱した。6月中旬から下旬に「ごみ減量・リサイクル推進説明会」(兼推進員説明会)を14会場で16回開催し、参加者は678名であった。

○ 小型家電リサイクル法啓発事業

平成25年4月施行の同法の推進を図るため、小型家電回収ボックスを各地区行政センターに月ごとに巡回設置するとともに、クリーンセンター、市役所本庁舎別館、飯能中央地区、加治東地区及び原市場地区行政センターに常設し、認定事業者へ回収量897.5kgを引き渡した。また、平成29年度から2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会の入賞メダルに、不要になった小型家電に含まれるリサイクル材を活用するプロジェクト(「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」)による携帯電話専用の簡易型回収ボックスをクリーンセンター、環境緑水課、市立図書館、各地区行政センターに設置し、認定事業者へ回収量75.4kgを引き渡した。6月の「環境フェスタ」及び11月の「はんのう生活祭」においてイベント回収を実施し、多くの市民に周知・啓発を行った。

○ ごみ減量啓発ポスター事業

市内小学4年生から中学3年生を対象に、夏休みにごみ減量ポスターの絵を募集した。97点の応募作品から入選10作品を審査にて選定、うち特選2作品を使用して啓発ポスターの作成・掲示やごみ収集カレンダーに掲載した。入選作品は、11月に展示会を実施し、12月に市長表彰を行った。

	応募総数	参加校
小学生の部	80点	11校

・小学生の部審査結果 特選1点 入選4点

	応募総数	参加校
中学生の部	17点	6校

・中学生の部審査結果 特選1点 入選4点

事業の主な内容及び成果

○ 資源再利用奨励補助金交付事業

資源としてリサイクル可能な有価物を回収した団体及び協力業者に対して補助金を交付した。

(団体)

補助金交付団体数	回収量	交付金額
63団体 (総実施回数175回)	551,944kg	2,759,716円

(協力業者)

補助金交付協力業者	回収量	交付金額
6業者 (総協力回数112回)	386,917kg	773,833円

○ 生ごみ処理器はんのうキエー口購入費補助事業

市民誰もが取り組める生ごみ減量方策の具体的施策として、平成26年度から3年間のモニター事業等を経て、平成29年度から生ごみ処理器はんのうキエー口購入費補助制度を施行し、生ごみ処理器はんのうキエー口を普及促進した。

補助金交付件数	販売台数	交付金額
106件	110台	679,000円

○ 若年層向け啓発事業

市内小学校に赴き、ごみの分別方法及び処理状況等について啓発、教育を行った。また、はんのうキエー口の普及促進を図るため、公民館共催事業を行った。

事業名	対象	内容	回数	人数
出張授業	小学4年生	ごみの分別方法	12回	532名
環境講座	小学生ほか	キエー口作り等	2回	40名

○ 資源持ち去り防止パトロール事業

職員3名体制で朝7時から「紙・布の日」に当たる地区の集積所を重点的に巡回した。9月から6回実施し、飯能警察署地域課と情報共有を図りながら巡回を強化した。

主管課	資源循環推進課	一般会計					
		款		項		目	
		4	衛生費	3	清掃費	2	塵芥処理費

事業の主な内容及び成果

【ごみ収集事業】

市内の家庭等から排出される一般廃棄物を品目ごとに分別収集を行い、ごみの減量化、資源の再利用の促進を図った。

クリーンセンターで取り扱ったごみの処理概況は、次のとおりであった。

区分	可燃ごみ	不燃ごみ	空びん	飲料缶	紙・布	粗大ごみ	プラスチック	ペットボトル	計
処理量	t 17,631	t 680	t 526	t 128	t 2,613	t 541	t 1,132	t 197	t 23,448

【ごみ処理事業】

収集・運搬した一般廃棄物を品目ごとに分別するとともに、その処理と再資源化可能なものは、種類ごとに選別を行い再利用を図った。

容器包装リサイクル法に基づく再商品化は、ガラスびん 264 t 及びプラスチック製容器包装 988 t であった。

有価物の概況は、次のとおりであった。

区分	鉄くず等	アルミ	紙・布	ペットボトル	計
回収量	t 450	t 130	t 2,613	t 197	t 3,390

また、焼却灰1,609 t 及びばいじん369 t をセメント原料化として搬出し、最終処分場の延命化と循環型社会形成に向けた取り組みを行った。

【クリーンセンター施設管理運営事業】

既設炉において計画的な運転および消耗品の使用などにより運転費用が極力抑えられた運転ができた。その後臭気対策、施設内の整理などにおいて問題なく閉炉作業が終了した。また新施設の竣工に伴い施設の適正な維持管理と運転に努め、新施設を運転していく中で更なる節電対策及び雨水利用を実施し、光熱水費の低減を図った。また施設運営の中で、今回設置した蒸気発電設備において効率の良い運転を行えるよう試行錯誤し、適正に廃棄物の処理を行った結果、設計時の計算を上回る売電収入があった。

【最終処分場施設管理運営事業】

一般廃棄物最終処分場からの排水を適正に処理し、水質を適正に維持するために水処理施設の維持管理及び修繕を実施した。最終処分場の延命化と資源の有効利用のため、焼却灰、廃ガラス等は資源として有効活用を図っていたが、新施設については破碎不燃物についても焼却処分としたため更なる延命化が図れるようになった。

主管課	資源循環推進課	一般会計					
		款		項		目	
		4	衛生費	3	清掃費	3	ごみ処理施設建設費

事業の主な内容及び成果

【ごみ処理施設建設事業】

平成29年12月20日に計画どおり新施設が竣工し、適正な処理を開始した。

区分	事業名	事業費
委託料	飯能市ごみ処理施設建設工事設計・施工監理業務委託	29,749,920
	飯能市ごみ処理施設建設事業技術支援業務委託	3,898,800
工事請負費	飯能市ごみ処理施設建設工事	4,682,427,080
負担金	下水道事業受益者負担金	2,818,960

主管課	資源循環推進課	一般会計					
		款		項		目	
		4	衛生費	3	清掃費	4	し尿処理費

事業の主な内容及び成果

【環境センター施設管理運営事業】

○し尿処理

環境センターでは、搬入されたし尿及び浄化槽汚泥を膜分離高負荷脱窒素処理方式によって、日平均にして60kℓの処理をおこなった。

放流水質については、水質汚濁防止法のBOD(生物化学的酸素要求量)規制値20mg/ℓ(県条例による上乘せ値)に対して、平均値(年間)は0.8mg/ℓと良好であり、他の項目についてもすべて基準値(規制値)内であった。

し尿、浄化槽汚泥処理量

区分	し尿	浄化槽汚泥	合計
	kℓ	kℓ	kℓ
処理量	2,709	19,137	21,846